

主 題：如何に生きるか

聖書箇所：伝道者の書 12章13, 14節

ドイツの文豪ゲーテはこう言います。「良きことは近くにあり、幸福は身近にある。幸せを探す術を得なさい。」と。神が私たちに望んでおられることもそのとおりです。幸せを得る術を自分のものとするようにと。しかし、多くの人は神に目を向けようとはしません。本当の満足を得ようとしません。ダビデの後を継いだイスラエルの王ソロモンは言います。「空の空。伝道者は言う。すべては空。」と。これは伝道者の書 12：8 に書かれています。ソロモン王は本当の満足についてどのように考えたのでしょうか？ 伝道者の書を順に見てゆきましょう。

☆本当の満足は？

1. 自然界の中に

1：10「これを見よ。これは新しい。」と言われるものがあったとしても、それは、私たちよりはるか先の時代に、すでにあったものだ。」と、新しい発見であったとしても、それに真の満足はないと言います。

2. 知恵の中に

1：18「実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識を増す者は悲しみを増す。」

3. 快楽

2：1-3「私は心の中で言った。「さあ、快楽を味わってみるがよい。楽しんでみるがよい。」しかし、これもまた、なんとむなしいことか。笑いか。ばからしいことだ。快楽か。それがいったい何になるろう。私は心の中で、私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけようと考えた。人の子が短い一生の間、天の下でする事について、何が良いかを見るまでは、愚かさを身につけていようと考えた。」

4. この世での成功に

2：4-8「私は事業を拡張し、邸宅を建て、ぶどう畑を設け、庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。木の茂った森を潤すために池も造った。私は男女の奴隷を得た。私には家で生まれた奴隷があった。私には、私より先にエルサレムにいただれよりも多くの牛や羊もあった。私はまた、銀や金、それに王たちや諸州の宝も集めた。私は男女の歌うたいをつくり、人の子らの快楽である多くのそばめを手に入れた。」

5. 現状を受け入れることで

3：1-10「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。殺すのに時があり、いやすのに時がある。くずすのに時があり、建てるのに時がある。泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。捜すのに時があり、失うのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。引き裂くのに時があり、縫い合わせるのに時がある。黙っているのに時があり、話をするのに時がある。愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦うのに時があり、和睦するのに時がある。働く者は労苦して何の益を得よう。私は神が人の子らに与えて労苦させる仕事を見た。」

6. 宗教

人間の作った宗教に答えはありません。

7. 富・財産

5：10-15「金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた、むなしい。財産がふえると、寄食者もふえる。持ち主にとって何の益になるろう。彼はそれを目で見ただけだ。働く者は、少し食べても多く食べても、こちよく眠る。富む者は、満腹しても、安眠をとどめられる。私は日の下に、痛ましいことのあるのを見た。所有者に守られている富が、その人に害を加えることだ。その富は不幸な出来事で失われ、子どもが生まれても、自分の手もとには何もない。母の胎から出て来たときのように、また裸でもとの所に帰る。彼は、自分の労苦によって得たものを、何一つ手に携えて行くことができない。

⇒ソロモンはこのように考えた結果、その結論は 12：13「神を恐れよ」です。

13 節、「結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」と言います。この「人間にとってすべて」とは、神を恐れること、そのために人間は造られたのだということです。「神を恐れること」は人間の義務でもあるのです。神に喜ばれることをしてゆくことこそ、神が望んでおられることです。「神の命令を守れ。」は神に従ってゆくことです。それゆえに、12：1「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」と言われるのです。

そして、14 節、「神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。」と続きます。神は「すべてのわざをさばかれる」のです。私たちにはどのように生きるのかの責任があります。自分が行なったこと、また、行なわなかったこと、それらのすべてに責任があります。私たちはこの地上での歩みにおいて、神の祝福のもとに歩んでゆけるのです。すべてに神の計画があります。私たちにはそれがはっきりとわからないけれど、信じて行きます。それが信仰です。神は正しい報いを与えられます。それを信じて行くのです。

詩篇 90 篇は「神の人モーセの祈り」です。その中でモーセは言います。90：8,9「あなたは私たちの不義を御前に、私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。まことに、私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に沈み行き、私たちは自分の齢をひと息のように終わらせます。」

また、ソロモンもこう言っています。伝道者の書 8：13「悪者にはしあわせがない。その生涯を影のように長くすることはできない。彼らは神を敬わないからだ。」

「あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」とパウロもコロサイ 3：2 で言っています。如何に生きるか、どのような選択をするのかは、私たちの責任なのです。